

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年10月14日

枚方市立西長尾小学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童（生徒）の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査の結果

<学力調査結果の概要>

（◎はよい傾向がみられたもの、△は課題として力をつける必要があるものを示す。）

○国語について

→◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う力、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える力、漢字を文の中で正しく使う力

△目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりするなど自分の考えが伝わるように書き表す力、

目的に応じて文章と図などを結び付けるなどして、必要な情報を見つけ、理由を記述する力

傾向・・・話し合いの様子やインタビューの様子から適切なものを選択する設問や複数の資料から適切なものを選択する設問の正答率は高めであるが、目的に応じて自分の考えを記述したり、根拠を示して考えをまとめ記述することには課題がある。

○算数【数学】について

→◎計算する力、グラフから項目間の関係を読み取る力、図形を構成する要素を理解する力（作図、角の大きさ）

△目的に応じて理由を示して言葉や数を用いて記述する力、複数の要素や条件の関係性を理解する力

傾向・・・基本的な概念理解はできているが、要素や条件を活用して根拠を示して言葉や数を用いて記述することに課題がある。

○理科について

→◎観察、実験に用いる器具や機器の操作技能、自然の事物・現象についての（電気、磁石の性質、植物のつくり、水の性質）知識理解

△実験結果を基に結論を導いた理由を表現する力、差異点や共通点から新たな問題を見出し表現する力

傾向・・・観察、実験の方法や自然の事象についての知識理解はできているが、科学的な見方や考え方を実感を伴った理解に課題がある。

国語科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

問題の概要<I二>

【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する。

出題の要旨

情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかをみる。

- 二
- 【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きなさい。
- 1 質問する内容を丸で囲み、質問しない内容に線を引いて区別している。
 - 2 質問する内容を四角で囲み、線をつなぐことでインタビューの流れを整理している。
 - 3 質問する内容を短い言葉で書き、線をつなぐことで質問を一つにしている。
 - 4 質問する内容をできるだけ詳しく書き、多くの質問ができるようにしている。

【話し合いの様子】

① 小森さんの学級では、働くことについて考えるために、自分の興味のある仕事をしている人インタビューをしています。次の話し合いの様子と【話し合いの記録】をよく読んで、あとの問いに答えなさい。

小森さん 質問することを通して理解するために、話し合ったことを記録するね。私は、運転士さんがどんなことを大切にしているかを知りたいな。きつと、乗客の安全を大切にしていると思うな。

清川さん ぼくがよく乗るバスはいつも時間通りに来る。時間を守ることも大切にしていると思うな。

町田さん 安全を考えたとき、時間を守ることは、大変そうだな。

小森さん 確かに、大変そうだね。「仕事で大切にしていること」を聞くことができたかもしれないよ。

清川さん バスの運転士は、乗客に安全に送ってほしいから、大変なことをしていると思うな。

町田さん きつと仕事にやりがいがあるからだよ。

清川さん ぼくもそう思うな。大切にしていることとやりがいについて、働くことについて考えるためにもぜひ聞きたいね。

小森さん うん、そうしよう。こまごまの話し合いの記録をこんなふうにまとめよう。この進め方いいかな。

働くこと（バスの運転士）

大切にしていること やりがい

安全を守る 時間を守る

大変なこと 大変なのに続ける理由

考察

情報と情報との関係付けの仕方や図などによる関係の表し方を理解し、使うことができるかをみる問題です。

対全国比では、若干低くなっていますが、「非認知能力を育む創作劇活動」の話し合い活動を通して、児童が話し合うことに慣れ親しみ取り組んできた成果と捉えています。

問題の概要<I三(1)>

【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した理由として適切なものを選択する。

出題の要旨

自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる。

- (1)
- 【インタビューの様子の一部】の小森さんが、部アのように発言した目的として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きなさい。
- 1 自分が知りたいことをより具体的に知るため。
 - 2 質問する理由を相手に正しく伝えるため。
 - 3 自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめるため。
 - 4 相手が伝えたいことの中心を明確にするため。

三

小森さんたちは、バスの運転士の同様にインタビューをするにしました。次の【インタビューの様子の一部】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えなさい。

【インタビューの様子の一部】

小森さん 私たちは、働くことについて考えるために、興味のある仕事について調べています。今日は、同様の仕事と関係しているかどうかを聞いてみたいと思います。

同さん どうぞよろしくお願いします。

小森さん はじめに、バスの運転士として同様に大切にしていることを教えてください。

同さん バスはたくさん乗る人から乗せていますから、やはり、安全に目的地までお送りすることを大切にしています。

小森さん 安全に送ることは大変なことですね。安全に送るために、例えばどのようなことを心がけているのですか。

同さん 道が混んでいると時刻通りに運行できないこともありますが、あわててしまうと、大きな事故につながる可能性があります。落ち着いて運転するようにしています。それに、バスの安全を守るというのは運転士だけではなく、乗客の安全も大切です。

小森さん えっ、そうなんですか。運転士は乗客の安全を確保する責任があるのですか。

同さん そのほかに、私たち運転士の健康状態を確認するなど、安全な運行を管理する人もいます。

小森さん なるほど、たくさん乗る人が、乗客の安全を支えてくれているんですね。私たちは、安全を守ることも大切だと考えています。あなたが考えている以上に安全を第一に考えてくださっていることが分かりました。

清川さん バスの安全な運行のためには、大変なこともあると思いますが、いかがですか。

（インタビューが続く）

考察

インタビューの中で自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えることができるかを問う問題です。

非認知能力を育む学級活動、特別の教科道徳、総合的な学習の時間等における協働的な学びを通して、自分の意図に応じて、内容を捉え、相手の考えと比較しながら自分の考えを整理する力がついてきていると捉えています。

算数(数学)科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

問題の概要<1(1)>

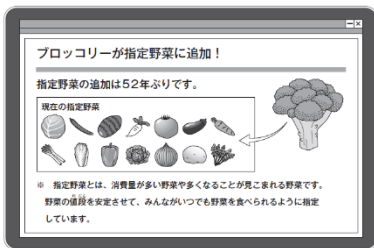
2022年の全国のプロッコリーの出荷量が2002年の全国のプロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ。

出題の要旨

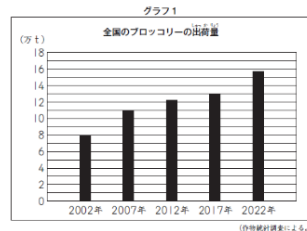
棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる。

1

あいりさんたちは、2026年度からプロッコリーが指定野菜に追加されることをニュースで知り、指定野菜について調べることになりました。



(1) あいりさんは、プロッコリーについて調べていると、右のグラフ1を見つけた。



グラフ1からわかることを、次のようにまとめます。

2022年の全国のプロッコリーの出荷量は、2002年の出荷量の約 倍になっています。

上の空に入る数字を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.5
- 2 2
- 3 8
- 4 16

考察

日常の事象について、目的に応じて表やグラフからデータの特徴や傾向を捉え考察できるかどうかをみる問題です。

対全国比では、少し下回ったものの棒グラフの項目間の関係は読み取ることができています。

日常の事象についても、示された資料から必要な情報を見出すことができるようにしていく必要があります。

問題の概要<2(1)>

示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ。

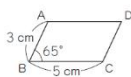
出題の要旨

平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる。

2

わかさんたちは、いろいろな図形について学習してきたことをふり返っています。

(1) 下のような平行四辺形ABCDがあります。



わかさんは、右の【わかさんのかき方】のように、平行四辺形ABCDをかいています。

【わかさんのかき方】

① 長さ5 cmになるように辺BCをかきます。

B 5 cm C

② 角Bの大きさが65°で、長さ3 cmになるように辺ABをかきます。



③ コンパスを使って、頂点Dの位置を決めます。コンパスを5 cm (辺BCの長さ) に開き、コンパスの針を頂点Aにさして、円の一部をかきます。



【わかさんのかき方】の③でできた図は、下のようになります。



このように、頂点Dの位置を決めるために、コンパスをもう一度使います。コンパスを5 cm に開きます。頂点をAにさして、円の一部をかきます。また、コンパスの針を頂点Cにさして、頂点Dの位置を決めます。頂点Dの位置を決めたら、頂点Dを結ぶ線をかきます。

考察

平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する問題です。

作図の方法は、身に付いています。昨年度までの少人数指導や専科指導によるきめ細やかな指導の成果と考えられます。これは、分数の計算問題にも現れています。

一方で、図形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述する問題の正答率は低くなっています。授業の中で考察したことを表現する場面を多く設定していく必要があります。

【成果が見られた設問】

顕微鏡等の観察、実験において扱う器具や機器などを適切に操作する技能を身につけることは安全に実験や観察をするうえで大切です。正答率は全国を上回っていますが、適切な操作を理解するとともに操作体験を通して技能を身に付け、安全に実験、観察ができるようにしていきます。

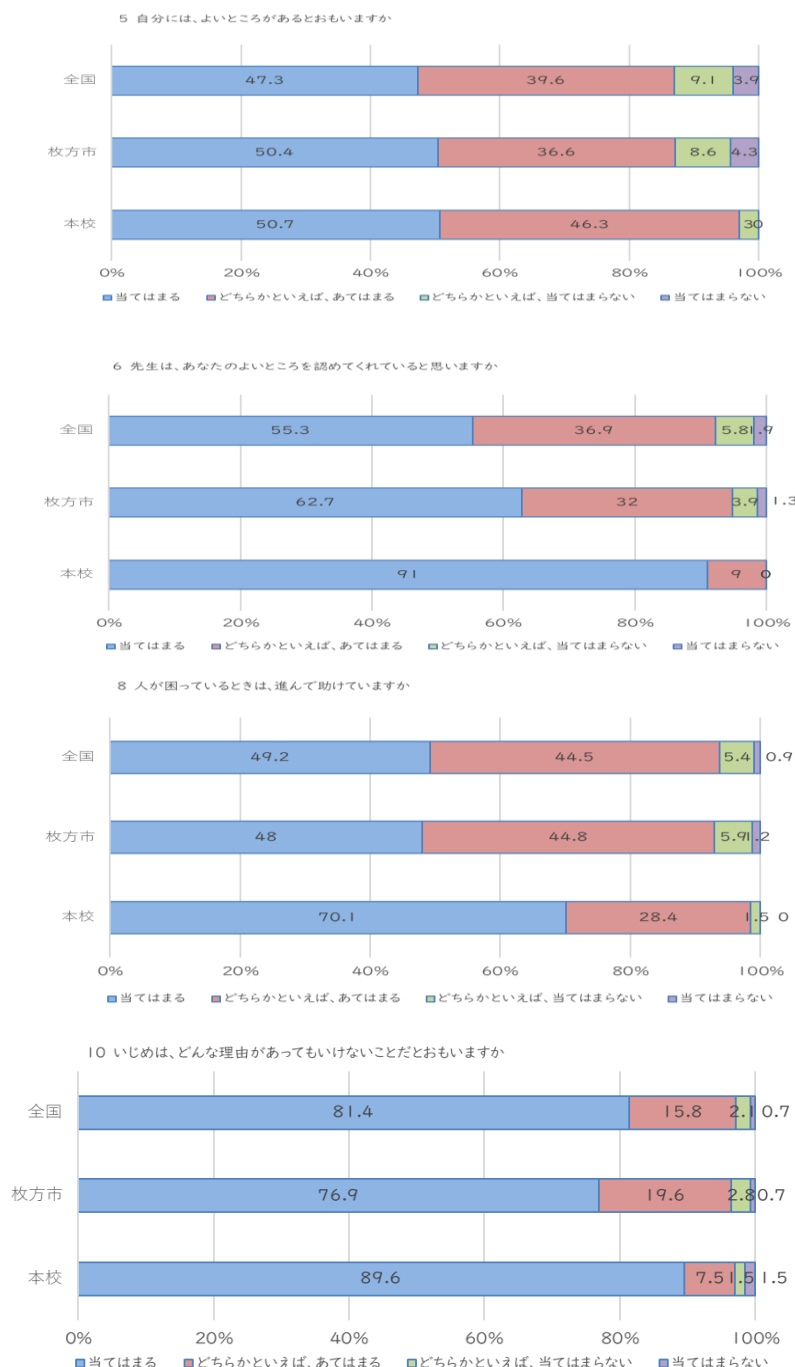
質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果が見られた項目】



考察

5にあるように自己肯定感が非常に高く、また、8では、特に「当てはまる」と回答した児童が多く、周囲の人への思いやりの気持ちを大切にしている児童が多くいることがわかります。

非認知能力の育成を通して、お互いの良さを認め合い、互いに高め合える学校づくりに取り組みます。

考察

6は、学校への信頼感を示す項目で、「当てはまる」の回答が全国を大きく上回っています。一人ひとりの良さを認め、児童の自己肯定感を高められるように取り組んでいきます

考察

10では、全国と同様に多くの児童が「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答していますが、少ないですが否定的に回答している児童もいることは真摯にうけとめ、一人一人を大切に、全ての児童が安心して過ごせる学校づくりに取り組んでいきます。

質問紙調査の結果

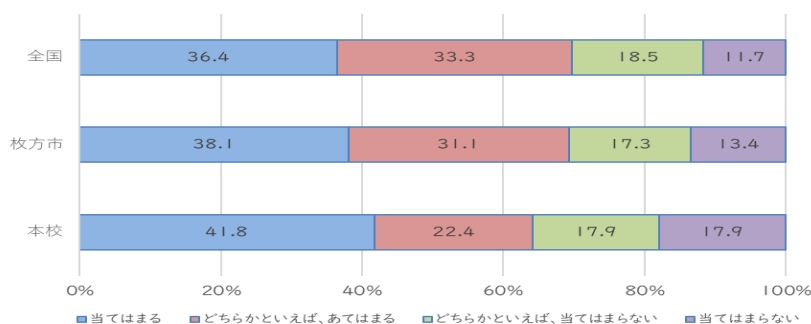
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

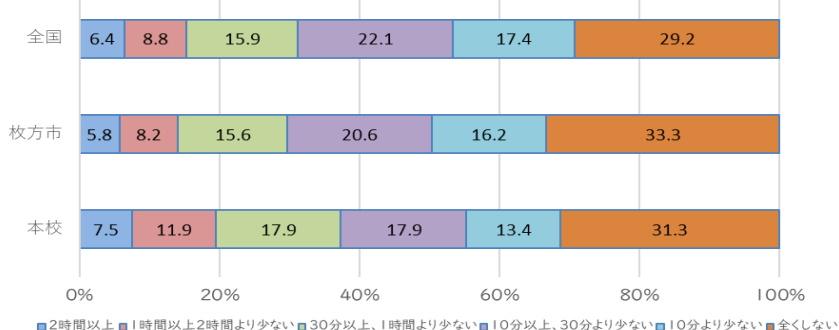
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【課題が見られた項目】

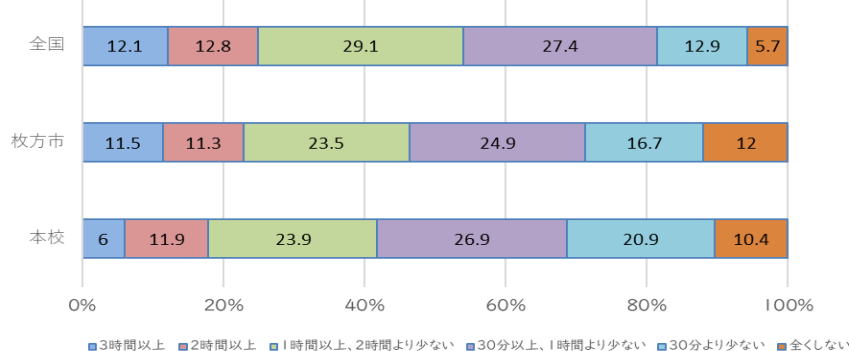
24 読書は好きですか



21 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



17 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



考察

24では、読書が好きと肯定的に回答した割合が全国比で5.5ポイント低くなっています。

21の1日当たりの読書時間の設問でも、1時間以上読書をする回答した割合は全国を上回っていますが、読書を全くしない割合は多くなっています。

読書をすることにより、語彙を増やし、言葉や論理の理解力を向上させるため、読書ノートや読書週間など読書に親しむ取り組みを継続的に進めていきます。

考察

17の学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間で、「30分より少ない」と「全くしない」の割合が全国より多く、自学自習力の向上が今後の課題です。自ら進んで学ぶ力を育む働きかけや環境づくりの工夫が必要となります。

(1) 授業改善について

◇家族、友達、先生との関係が素晴らしく、且つ、困っている人を助ける優しい子ども達

「自分にはよいところがある」の肯定的な回答97%（対全国比7.7%）、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の肯定的な回答91.1%（対全国比20.5%）の結果が、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的な回答92.5%（対全国比6.0%）につながっており、学校における子ども達の環境は、心理的安全性が高いのではと考えられます。実生活でも「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の肯定的な回答98.5%（対全国比5.5%）と家庭での支援も大変充実していると考えられています。

つまり、先生、友達、家族とも良好な人間関係を築いていることが伺えます。また、学級活動、特別の教科道徳、総合的な学習の時間においてもグループでの話し合い活動でそれぞれが意見を出し合う姿もアンケート結果から窺い知ることができました。引き続き、協働的な学びを通して非認知能力の更なる引き上げを図ります。

◇非認知能力を生かし、認知能力を高める方策について

非認知能力を着実に蓄えてはきましたが、学力面では、教科に関わらず全国の平均正答率に比較して数%程低い結果が各教科とも見受けられました。これらの問題の傾向として、一律に300字から800字程度の問題文を読み切ることが求められます。更に、問題文に2つ以上の質問があり、1つひとつの問題に正対した回答が求められていました。その過程を文章で説明したり、複数の資料を引用してまとめたりする力が求められているものについては、特に鍛えレベルアップする必要があります。その他に、基礎基本の問題には答えられるが、それに至る理由を問われると論理的に答えられないものもありました。「手続きは知っているがその意味は理解できていない。」ところが課題と捉えました。

◇文章を楽しく読む機会を増やすとともに、学んだことを言語化する機会を大切にします

習っている単元に関わる内容についての読書は国語に限定されがちですが、教科を問わず読書できる環境を校内に増やして参ります。また、現在行っている朝日新聞「読書ノート」の活用等楽しく読書できる仕掛けも児童主体の委員会活動と校内分掌の学力向上部を中心に組織的に活動して参ります。

また、演劇的手法を生かした話し合い活動など普段の授業において実績を積み上げてきた協働的な学びを土台に、各教科で学んだことを言語化する時間を十分に確保するとともに、子ども達どうしが書き上げた内容を評価し合う機会を設けます。教師は、子ども達どうしの学びのファシリテーター役を担うとともに、子ども達の学びの軌跡を価値づけし、課題となっている力の獲得に向けた授業の仕掛けづくりに邁進いたします。

個別最適な学び（自己調整、自己決定）の時間、協働的な学びの時間、一斉指導の時間など、あらゆる学びの仕掛けづくりを駆使してすべての子ども達の学習権を保障し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指して参ります。

(2) 家庭学習について

子ども達の調査に対する無回答率は大変低く、子ども達が果敢に答えようとする態度が見受けられました。非認知能力・西長尾小7つの力「最後まであきらめない力」をテストでも発揮していたことは大変嬉しく感じました。

子ども達は、学んだことを実生活に結び付けて考えたり生かしたりすることができると、95.6%の子ども達が肯定的に回答しています。本校の子ども達が、学びを自然に自分たちの生活に生かそうとする態度は、今後の実社会でも実践力として大いに役立たせることが期待できます。学校での学びが途切れることなく家庭でも生かされることを念頭に、授業に関連した課題を出すことも進めて参ります。

また子ども達が自ら課題を見つけそれを家庭で行う自主学習にも力を入れるとともに、その探究の良さを好事例として校内各教室でも引き続き紹介して参ります。